

## 2021（令和3）年度 東京大学 入試問題 第1問 解答例

一 福祉国家の対象から排除された人々を中心に、保健の主客でも身内でもない、相互的な自助の社会性が形成されたということ。

\*傍線部アで述べられた「ケアをする者とされる者という一元的な関係とも家族とも異なったかたちでの」という箇所については、もちろん具体例や傍線部のままでは、「説明」をしたことにはならないが、かといって、曖昧にすませず、きちんと解答として表現しきれたかどうか、ポイントの一つである。

\*「親密性」についても、単なる「社会性」の類では、説明にならない。

二 公的サービスのなかに、国家の管理と統治の論理とは異なる、苦しむ人々を支える共同的で公共的な論理が現れたということ。

\*「共同的で公共的な論理」は最低限の解答ポイントであるが、「人間」に該当する「苦しむ人々」にも言及しておくこと。

三 顧客が自己の欲望に従い、商品やサービスを主体的に選ぶという考え方は、一個人の孤独と自己責任を前提とするということ。

四 個人や社会を基盤とする福祉国家の公的サービスでは、対象から排除された人々が常に存在する。他方、ケアは、苦しむ人々に必要なことを適切に判断し、身体を世話し調えるためのすべてから成る共同的で協働的な作業であり、共に生きる社会性を示すということ。（一二〇字）

\*まずは、傍線部の主題「それは」（＝ケアは）と、述部「生きた世界像につながっている」（共に生きる社会性を表象する、など）」という構文・内容を外さないこと。

\*さらに、「人間だけを行為主体と見る世界像ではなく」という否定内容についても、「ケア」の論理とは異なる従来の福祉国家的な制度設計と対比しつつ、「すべてから成る」というキーワードを解答に取り込んで説明する。

五 a 診察 b 諦 c 羅針